

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

2026 年 8 月 10 日

犬 山 市 議 会

議 長 大沢秀教

様

議員名 岡村千里

下記のとおり、視察 の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	2026 年 7 月 14 日 (火) ~ 2026 年 7 月 15 日 (水) (泊 2 日)
(2) 場 所	東京都千代田保健所, 東京都人と動物のきずな福祉協会
(3) 形 態	会派 (日本共産党 犬山市議員団) : その他 ()
(4) 内 容	1. 飼い主のいない猫、飼えなくなった犬猫の譲渡支援 H10年度に千代田区では、外で暮らす猫に対して「排泄物の臭い」など苦情が寄せられた。対応策として、H12年度から「飼い主のいない猫」事業の取り組みが始まる。区と連携して活動するボランティアを募集し、現在の特定非営利活動法人ちよだにニャンと共存会。H12年度からTNR活動を始め、去勢、不妊手術費助成をスタート。去勢手術費 1頭 17,000円、不妊手術費 1頭 20,000円(上限) 年間 100~200 件、手術。H22をピークに減少し、R5:1件、その後 0件。H23年、「殺処分ゼロ」を達成。現在も維持している。 その後、医療処置の助成や、手術後、人に慣らして譲渡へつなぐ TNTA の方向へ。予算は約 1000 万円以内、東京都も上限 500 万円負担あり。 東京都人と動物のきずな福祉協会では、猫シェルターの実際を見学できた。行政との連携や経緯も理解でき、有意義だった。
(5) 成 果 ・ 提 言	1. 市として、飼い主のいない猫への政策を検討し、職員を現状の 1 人から複数に増員すること。 2. 名古屋も殺処分ゼロをめざして努力している。先進事例を参考に、ボランティア団体と連携した取り組みを検討すること。 3. 愛知県に対して、飼い主のいない猫の手術費用等の助成を行うよう、強くはたらきかけること。



(条例) 様式第2 (第9条関係)

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

2026 年 8 月 10 日

犬 山 市 議 会

議 長 大 沢 秀 敬 様

議員名 岡 村 千 里

下記のとおり、視察 の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	2026年 7 月 14 日(火) ~ 2026年 7 月 15 日(水) (1 泊 2 日)
(2) 場 所	東京都多摩市役所
(3) 形 態	会派 (<u>日本共産党 大山市議団</u>) : その他 ()
(4) 内 容	2. 次世代育成支援(スタディクーポン事業) 多摩市では、生活保護世帯の子どもたち(小学4年生~高校3年生)を対象に、学校外での学習機会を保障するスタディクーポン事業を、R5年から実施している。 学習塾や通信教育などの費用に利用できるクーポンを一人あたり、年額10万円~20万円提供している。事業の実施主体は、多摩市健康福祉部生活福祉課で、公益社団法人チャンス・フォー・キルトレ(CFC)に事業を委託している。 単に塾代を補助するだけでなく、子どもが希望する学びの場を選択できるようにし、CFCが学習・進路についての相談に関わり、子どもに寄り添った支援を行っている。多摩市が「貧困の連鎖を断ち切る」という目的をもって取り組んでおり、利用者からも学ぶ機会が広がったことを喜ぶ声がかかっている。
(5) 成 果 ・ 提 言	1. 生活保護世帯や、就学援助世帯などを対象に、学習塾や不登校児童生徒等の学習支援などに利用できる「学びのクーポン」の導入を検討する。 2. 子ども一人ひとりに寄り添う伴走型の支援を行う。 3. 「貧困の連鎖を断ち切る」という視点から、子どもの貧困対策を進める。

(条例) 様式第2 (第9条関係)

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

2026年 8 月 10 日

犬 山 市 議 会

議 長 大沢秀敏 様

議員名 岡村千里

下記のとおり、視察 の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	2026年 7 月 14 日(火) ~ 2026年 7 月 15 日(水) (泊 2 日)
(2) 場 所	東京都多摩市立中央図書館
(3) 形 態	会派 (日本共産党 大山市議団) : その他 ()
(4) 内 容	3. 多摩市立中央図書館について 多摩市立中央図書館は、令和5年7月に開館。多摩中央公園内に建設した図書館で、地上2階、1階、地下1階、2階の4階層の建物。地上2階は読書もおしゃべりも楽しめる広場系開架で、おはろけのへや、カフェを整備。地上1階は、多くの蔵書を有し、静かな環境で読書を楽しむ静寂系開架。延べ床面積5,439.26㎡。約60万点を収蔵。ZEB Readyを取得。建設時の伐採した樹木を有効活用している。総工費は約45億円。利用状況は、来館者数^約94万人(これまでに約5倍)貸出者数、約31万人(同期間比約2倍)比較的利用が少なかつた20代~30歳代ほど若年層の貸出数が増え、親子の利用が増えたと推察。とても素晴らしい施設で、市の直営。学校図書館との連携もされており、学校からの希望図書が貸付けもされている。
(5) 成果・提言	1. 図書館を子どもから高齢者まで、気軽に利用できる「学びと交流の拠点」としてさらに充実させること。 2. 子どもや若者が家庭や学校以外で過ごせる場所として学習スペースや読書スペース、障がい者や不登校の子どもも利用しやすい環境づくりを進める。 3. カフェの導入も一度検討を(フェード店ではなし、地元の事業者など)